

企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

■ たびとしょCafeのスズメ
(2021年8月～11月)

観光に関わる“人と情報”“人と人”の交流機会を提供することを目的に、2014年に開始した「たびとしょCafe」は、ゲストスピーカー、参加者、JTBF研究員がフラットに交流することのできるミニシンポジウムです。これまで、26名ものゲストスピーカーをお招きし、様々なテーマでお話をいただけてきました。

今回のギャラリー展示では、最近の「たびとしょCafe」の様子を、ゲストスピーカーの印象的な言葉とともにご紹介します。



継続展示中!

1F

- 「旅の図書館オススメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- コロナ感染症と観光関連図書

B1F

- 「公益財団法人日本交通公社がお勧めする研究書 & 実務書100選」
- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

貴重書ギャラリー 1F

■ 旅行文化変遷史 ～変わり続ける旅のスタイル<戦前編> (2021年10～12月)

江戸時代にはじまった庶民の旅は、明治以降、昭和初期にかけて、鉄道と出版メディアの発達、旅行団体の組織化などを背景に、旅行の大衆化と近代化が進みました。戦後は、高度経済成長、高速交通網の整備進展、モータリゼーションの発達などにより国民の生活に根つき、旅行に求めるものやそのスタイルはより多様化し今日にいたっています。

本企画展では<戦前編><戦後編>の2回

に分け、旅行が次第に大衆化していくとともに、旅行スタイルが時代の変化のなかでどのように移り変わっていったのか、そのあゆみを紹介いたします。

今回は<戦前編>を展示します。コロナ禍にあるこの機会に、観光需要の創出・喚起につながった当時の出来事などをたどりながら、日本の旅行文化史を振り返ってみませんか。



Information

公開デジタルデータが充実しました

当館ではこれまで数年をかけて古書や都道府県観光統計資料等のデジタルアーカイブ化を進めてきました。

現在、これらのデータは館内の専用PCにて閲覧が可能です。既に公開している記事検索が可能なデジタルコレクション(『ツーリスト』『旅』)は、各巻号ごとのPDFとしてもご覧いただけるようになりました。

【デジタルデータで閲覧可能な資料】

- 観光統計 (都道府県観光統計ほか)
- UNWTO (国連世界観光機関) 刊行物
- 古書・稀観書(主要なもの)
- 『ツーリスト』・『旅』 (創刊号～終刊号まで)



オンラインによる「図書館案内プログラム」をご用意しました

当館では、コロナ禍にありなかなか来館できない方を含め、ご関心のある方に当館を知っていただくため、オンラインによる「図書館案内プログラム」をご用意しました(所要時間は1時間程度)。

今年度の当館主催のプログラムは、10月以降、2回程度の開催を予定しています(開催日時、参加方法等の

詳細は当館ホームページでご案内します)。

また、遠隔地にお住まいであったり、コロナ禍で大人数でのご利用が難しい大学ゼミ等でのご利用に対しては、オンラインによる案内プログラムも提供していく予定です。ご希望がありましたら、当館まで直接お問い合わせください。

【旅の図書館案内プログラムの概要(基本構成)】

- 旅の図書館とは(運営組織、図書館の歴史、運営コンセプト・特徴等)
- 館内のご案内(フロア案内)
- 図書の分類方法と蔵書紹介(蔵書分類、特徴的な蔵書の紹介)
- ご利用案内(開館日時、利用ルール・利用サービス等) ● 質疑応答

問合せ先 TEL:03-5770-8380 E-mail: tabitosho_info@jtb.or.jp

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 17

2021年10月号



神宮外苑イチョウ並木の落葉

「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

図書館運営の近況 ～コロナ禍とオリパラ開催のなかで～

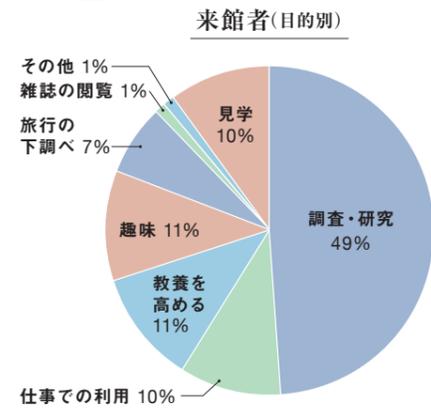
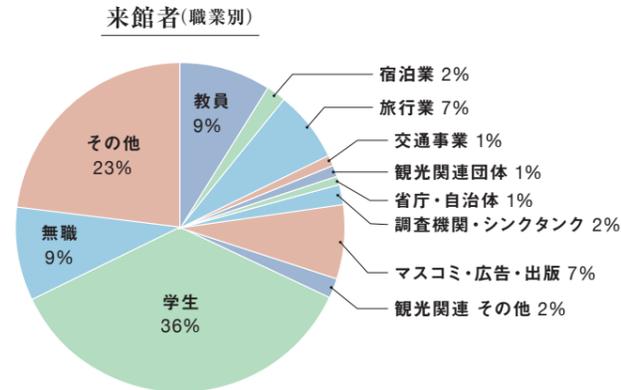
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1年延期となった東京オリンピック、同パラリンピックは、前者は7/23～8/8、後者は8/24～9/5の期間で開催され、無事閉幕しました。メイン会場に近い当館も運営への影響が懸念されましたが、緊急事態宣言により無観客での競技開催となったことや、同時利用人数の制限・事前予約制の導入によって、臨時休館や閉館時間短縮などの措置をとることなく運営を行いました。

2021年4月～8月までの5か月間の当館の来館者の傾向を簡単にご紹介します。

コロナ禍が長期化し利用者を制限しての運営が長引くなかで、来館者数もコロナ禍以前に比べて大幅に少ない状況が続いています。利用者層は、旅行の調べを目的とした方の利用が大幅に減少したこともあり、職業別では研究者・実務者及び学生の利用が全体の67%、目的別では調査・研究、仕事(実務)及び見学(学生ゼミ等)での利用が69%と、いずれも7割近くを占めました。

中でも、以前にも増して目立ったのが学生の利用です。主に卒業論文や研究テーマに関する資料調べを目的に、月平均15前後の大学からの利用があり、1人の学生が繰り返し来館されることも少なくありませんでした。また少人数に分散してゼミ見学を実施していただいた大学もありました。

加えて、従来の観光に関連した学部・学科を有する大学だけでなく、農学、建築、芸術など幅広い学問領域の大学からの利用も増えつつあります。観光の学際的な性格がうかがえるとともに、当館がより多くの研究分野においてご利用いただける可能性も感じています。



“こんなにある!” 個性あふれる港区内の専門図書館

当館が立地する港区には、東京都立中央図書館、港区立図書館(6館)などの公共図書館だけでなく、民間の公益組織などが運営する特徴的なテーマをもった専門図書館が数多くあります。

主な専門図書館には、当館のほか、BICライブラリ(機械産業)、味の素の文化ライブラリー(食)、アドミュージアム東京ライブラリー(広告)、航空図書館(航空)、国際文化会館図書室(日本研究)、三原図書館(仏教/旧大橋図書館蔵書を継承)、自動車図書館(自動車)、人権ライブラリー(人権)などがあり、一般にも公開しています(一部限定公開を含む)。

現在、これらの図書館ではネットワークをつくり、情報交換をしながら、「港区図書館マップ」を共同で活用したり、図書館紹介動画を作成しあうなど、様々な連携した取り組みを進めています。

この機会に区内の図書館めぐりをしてみてはいかがでしょうか？

港区図書館マップ
※製作：一般財団法人機械振興協会経済研究所(BICライブラリ)

旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 パッケージツアーの文化誌
吉田春生 著 草思社 2021年6月 四六判 293頁
「商品としての旅」のかたちである「パッケージツアー」。その成り立ちと進化の方向性を考察する。日本人の旅をめぐる知られざる創意工夫の物語から、これからの観光を考えてみてほしい。

2 ゆふいん大航海時代の幕開け
-旅をした仲間たち(ゆふいんブックレットvol.1)
由布院の百年・編集サロン 編
日本旅館協会由布院連絡会 2021年6月 A5判 111頁
農村の鄙びた温泉地から、日本を代表する人気温泉地へと発展を遂げた由布院温泉。ヨーロッパ型の温泉保養地を目指した、由布院らしい個性的なまちづくりへの軌跡を、2人のリーダーを中心とした関係者の対談や貴重資料をもとにアーカイブする。当財団研究員も編集に協力。

3 場づくりから始める地域づくり
-創発を生むプラットフォームのつくり方
飯盛義徳 編著 西村浩・坂倉杏介・伴英美子・上田洋平 著
学芸出版社 2021年7月 A5判 214頁
つながりを紡ぎだし、新たな活動を生み出している「場」を創り出すことは、地域課題解決の初めの一步である。場づくりのポイントとなる様々なデザインを実践者が具体的に解説する手引書。

4 欧州のバイオホテル -エコツーリズムから地域創造へ-
滝川薫 著 ブックエンド 2021年6月 B5判 143頁
持続可能な観光を目指して、資源マネジメントに取り組む「バイオホテル」が欧州各地に誕生しつつある。その歴史や活動とともに、バイオホテルが牽引する持続可能な地域づくりを紹介。

5 まちの魅力を引き出す編集力
桜井篤 著 同友館 2021年6月 四六判 274頁
特別なことをしなくても地元にあるものを「じっくり見つめる」ことから、人を魅了する観光資源にすることができる。地域の“面白さ”を発掘し観光商品化していくための実践的ノウハウが詰まった一冊。

古書探訪 — “古書はいつもあたらしい” —

古い時代の出版物、記録資料である古書は、先人の知の遺産ともいえ、時には現代に生きる私たちに新しいヒントを与えてくれます。当館が所蔵する戦前を中心とした旅行・観光に関する古書・稀覯書(約3,000冊)の中から、とっておきの資料をご紹介します。今回は、外客誘致・斡旋を目的に1912(明治45)年に設立されたジャパン・ツーリスト・ビューロー(当財団および(株)JTBの前身)の創立期を代表する2冊です。

機関誌「ツーリスト」(創刊号)

Japan Tourist Bureau, 1913, A5判, 64頁

ジャパン・ツーリスト・ビューロー設立の翌年に刊行された機関誌。6月の創刊号では、ビューローの設立趣旨や、日本で最初の外国人斡旋機関といわれる「喜賓会(Welcome Society)」の活動の中心的人物であった渋沢栄一男爵によるビューロー設立披露会(帝国ホテルで開催)での講話なども紹介されている。創刊当時の同誌の表紙を手掛けたのは、わが国を代表するグラフィックデザイナーの杉浦非水。第3号(10月号)から英文併記となり、1936(昭和11)年までに全189号が刊行された。戦前のわが国の観光政策・観光事業をたどることができる記録資料である。



JAPAN (ジャパン)

Japan Tourist Bureau, 1913, 88頁

ジャパン・ツーリスト・ビューローにより刊行された日本全国を対象とした最初の英文日本案内。多数の地図や写真等を掲載した英文ガイドブックとして大変充実した内容であることに加え、機関誌「ツーリスト」と同様に、杉浦非水による五重塔と紅葉を効果的に配したデザイン画が特徴。戦前にビューローから刊行された数多い英文ガイドブックの原点ともいえる一冊である。

